

ペアトレと環境作り

第5回 子どもが動きたくなる指示の出し方3か条

こんにちは。

今回は 「できそうなことを指示」 「期待が持てる結末を指示」
「とにかく笑顔で待つ！」 という3か条を実践してみるポイントについて
お話ししたいと思います。

相手の脳を働かせるか、フリーズさせるか

↓

指示を出す方の態度次第

第1条 できそうなことを指示

親が子どもに「やってほしいこと」

↑↓

子どもにとっては「難しいことの連続技」

例) 「片づけなさい」 ⇒ 子どもにとっては山登りをするような

途方もない作業 (=手順が多すぎる)

(=情報が漠然)

(=本人は片づいていると思っている)

子ども = 行動を分解して手順を組み立てることが苦手

↓

なんでも難しく感じてしまう

★point!

親＝簡単そうなことにかみ砕いて指示を出す

↓

日ごろから行動の要素を意識する

*ペアトレの基本・子どもの行動を観察ですね!!

例)片づけ

「脱いだ服を集めよう！」

「もうできたの！じゃあ次は集めた服を洗濯機に入れよう！ヨーイ、ドン！」

「ゴール！次はおもちゃをこの箱に集めようか！」 etc

↓

子どもができそうな段階まで分解

(子どもの能力に合わせて工夫してみましょう)

第2条 期待が持てる結末を指示

子ども＝「その行動をすると、どんなよいこと・悪いことが起こるか」

あらかじめ判断して動くことが苦手

・ほめられる機会が少ない子

||

悪い結末を予期する

見通す力が弱くなる

||

次第に行動することに臆病になる

★point!

子どもが行動を起こすための
判断基準を、声をかけて知らせる

その行動をするとどんなよいことが起こるかを
楽しそうに知らせる

例) 「7時までに食べ終わったら見たいテレビに間に合うね」

||

「早く食べなさい」より何倍も食べる行動を引き出せる

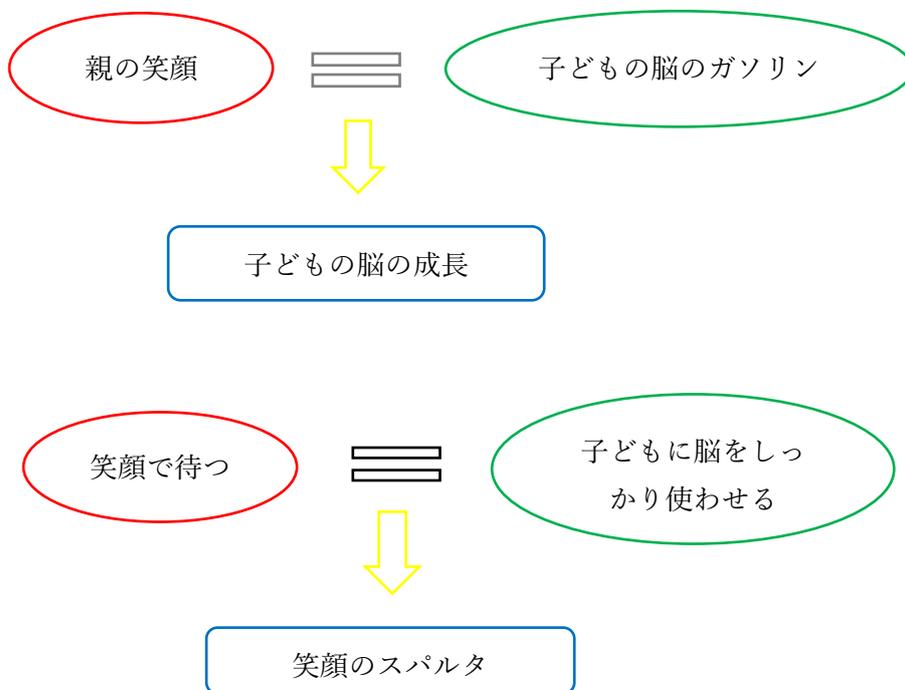
***自分の行動次第で**

結末が変わることを体験させていきましょう！

第3条 とにかく笑顔で待つ！

子どもの行動が終わるまで(=脳の活動が完結するまで)

笑顔で待つ！のみ!!



子どもの行動をまずは見て、
どのような指示がその子どもには適しているのか
色々と工夫をしながらやってみましょう！

そして、細々と行動の合間に声をかけるのではなく、
笑顔で完了を待つ！

そのことが子どもの脳の成長につながります。

親自身のコントロールも子どもの脳に影響するので
ぜひ、子どもと一緒に学び、成長していきましょう!!

参考・引用文献：発達障害の子どもを伸ばす 脳番地トレーニング
加藤俊徳著